

12 不活化ワクチン

A型肝炎



A型肝炎ってどんな病気？

A型肝炎ウイルスにより発症する感染症で、ウイルスに汚染された水やカキなどの二枚貝類やその他の魚介類、野菜・果物などを生で食べることにより感染します。潜伏期間は2～7週間（平均4週間）で38℃以上の発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛、腹痛などの肝炎症状が急激に強くでるのが特徴で、多くの場合は、1～2カ月の経過の後に回復しますが、まれに劇症化することがあります。

日本では2013年3月より接種対象に関する年齢制限はなくなり、特に感染流行国への渡航を予定されている方は、接種が推奨されます。

接種を受ける時期と間隔は？

●対象者

WHO（世界保健機関）ガイドラインでは、1歳以上の小児に接種を推奨しています。

●回数

初回：2回の筋肉内または皮下注射（通常2～4週間隔）
追加：初回接種後24週を経過した後に1回

（免疫賦与を急ぐとき）

初回：2回の筋肉内または皮下注射（2週間隔）
追加：長期に抗体価を維持するために、1回接種することが望ましい

A型肝炎ワクチンの副反応は？

●主な副反応は、全身性として倦怠感、発熱、頭痛などで、局所として注射部位の疼痛、発赤、そう痒感、腫脹、硬結などが報告されています。

●接種日

